環境パートナーシップちば
だより
―つながれ ひろがれ―

第１５１号
特定非営利活動法人
環境パートナーシップちば
℡：090-8116-4633
E-mail：info@kanpachiba.com
https://kanpachiba.com/

特定非営利活動法人環境パートナーシップちば第６回通常総会報告

平和の視点と持続の可能な社会づくりは私たち

代表理事 桑波田 和子

本日は、ご多忙の中でご出席いただき、ありがとうございます。会員の皆様には、日頃ご支援・ご協力をいただき感謝申し上げます。

おかげさまで、第６回通常総会を開催することができました。ご来賓として、(一財)千葉県環境財団営業担当部長小笠原様にご臨席いただきました。

現在広島では G7 が開催され、気候変動、エネルギー、平和などについて会議が始まっています。世界規模での枠組みの重要性と、地球市民として各自の取り組みが持続可能な社会を作りだすことを、新たに認識したいと思います。

2022 年度は、新型コロナウィルス感染防止対策をしっかり行いながら活動しました。

「SDGs・ESD をひろげるための“ちば北”拠点づくり」会議では、多様な主体との出会いもあり、持続可能な人材づくり、地域づくりなど共有し、解決へ向けて進める基盤ができました。

事務局機能を担当している「エコメッセ2022in ちば」は４年ぶりの会場開催で、対面での開催は意義深いものでした。また、実行委員会企画として、大学生が自らテーマを設定した「川すごろく」「かけはしラリー」は学生自身が学びの場でしたとの感想を聞きました。主体的に関わることで、自分ごと、次世代へ繋ぐ場がつくれました。

2023 年度は千葉県主催の「若者が主役の環境保全応援事業」を受託しました。若者と地域を繋ぐ中間支援団体「NPO 環パちば」としての活動も進めて参ります。

皆さまのご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。

来賓ご挨拶

（一財）千葉県環境財団業務部営業担当部長 小笠原千幸

ただいまご紹介いただきました、千葉県環境財団の小笠原でございます。本日は「環境パートナーシップちば」の総会にお招きいただき誠にありがとうございます。また、第６回目となる総会の開催、誠におめでとうございます。

「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては日頃、多様な主体とのネットワークの構築や人材育成の活動など、またエコメッセ千葉の実行委員会事務局として長年にわたり活動されていることに改めて敬意を表する次第でございます。「環境パートナーシップちば」と当財団の関りは深く、ともに環境活動をとおしてふるさと千葉のためにいろいろな事業を実施しているところでございます。

当財団の業務といたしましては、収益事業として、分析事業、環境測定器保守管理事業、地質環境事業、環境アセスメント事業、浄化槽検査事業があります。

また公益事業といたしまして、地球温暖化防止活動推進事業、エコアクション 21 事業、ちば環境再生基金事業などがあります。環境活動支援として本年も引き続き、県内の環境保全や再生などに取り組んでいる方々のお手伝いをして参ります。

さて、国際社会の共通の目的として SDGs があり、脱炭素化のために、グリーントランスフォーメーション(GX)の実現に向け日本でも取り組みが始まったところでございます。

ここにご出席の皆様、関係団体の皆様はその最先端で汗をかいている方々でございます。これからも環境を良くするためアイディアを出し合い、協力し合いながら、事故や怪我、健康に気を付けて、活動をしていただければと思います。

結びに、「環境パートナーシップちば」のますますのご発展と、会員の皆様のご健勝を祈念いたしまして、簡単ではございますが、挨拶とさせていただきます。

特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば 第６回通常総会 報告

令和５年５月 21 日（日）午後、千葉市生涯学習センター研修室に於きまして、オンラインとの併用、ハイブリット形式で行われました。会場には 10 名、オンラインでは５名の方々にご参加いただき、2022 年度の事業報告と決算報告、2023 年度の事業計画（案）と活動予算（案）、また理事監事の任期満了に伴う役員選出について、それぞれ議案書通りに承認可決されました。総会に関わる会員の皆さまには、事前・当日を含め総会成立へのご協力を賜りましたこと、深く感謝申し上げます。

環パの法人設立に際し様々な契約や書類、また会計処理などの煩雑な事務処理を主に担っていただいた萩原耕作氏、また明るく元気なしろくま先生こと廣田由紀江氏が理事を退任されることになりました。残念ではありますが、今までのご尽力に感謝申し上げます。

新たな理事として、ここ数年環パが行っている SDGｓ・ESD を千葉県内に広げる事業で、コーディネーター役としてお世話になっている石井雅章氏をお迎えすることができました。

ようやく新型コロナウィルスへの抵抗力（対策と気持ち）もついてきて、温暖化、戦争、人権、資源やごみなどエンドレスな諸問題に、私たち自身が柔軟に広く学び、積極的に活動を展開する必要性をさらに強く感じます。総会後のミニ交流会では、防災面でも線状降水帯に代表されるように日々の天気にさえも注意を払わなくてはならない状況になってきているとのご意見もありました。

社会全体がもっともっと、自然や変化に敏感になることが「持続可能な私たちと地球」への大事な戦術になるのではと思います。「ハチドリの一滴」活動を、会員の皆さまと共に続けていきたいと思います。　（文責：中村 明子）

年度初頭の挨拶

千葉県環境生活部 循環型社会推進課長　橋本 欣也

「環境パートナーシップちば」の皆様におかれましては、日頃、地域の環境保全活動の推進や多様な主体との連携など、本県の環境行政の推進に多方面から御協力をいただき、厚く御礼申し上げます。また、エコメッセちばの実行委員会事務局として、長年多大なる御尽力をいただいており、改めて敬意と感謝を申し上げます。

さて、県では令和３年度に策定した「千葉県環境学習等行動計画」に基づき、私たち一人ひとりが環境問題を「自分ごと」として捉え、自らのライフスタイルや事業活動を環境に配慮した形へ転換するなど、「行動する人づくり」を進めています。

気候変動、生物多様性の保全、海洋プラスチックごみや食品ロスなど、現在の環境問題は、私たちの日々の暮らしや事業活動と深い関わりがあり、社会のあらゆる主体が相互に連携・協働し取り組むことが必要です。そういった意味でも、「環境パートナーシップちば」の皆様の取組は大変重要だと考えています。

また、県では、SDGs の達成に向け、社会的関心が高まる中、環境活動の次代を担う若手人材の育成が急務となっていることを踏まえ、今年度から新たに「若者が主役の環境保全活動応援事業」を開始し、皆様と共に取り組んでいくこととしています。

その他各施策の推進においても、皆様のお力添えの下、様々な主体との協働を進めていきたいと考えておりますので、今後とも御理解と御協力をよろしくお願いいたします。

結びに、「環境パートナーシップちば」のますますの御発展と、皆様の御健勝を祈念いたしまして、年度初頭の挨拶とさせていただきます。

開催報告

第５回拠点づくり会議開催

日　時：2023 年３月 20 日（月）９：30～11：40
場　所：千葉市生涯学習センター研修室３　オンライン　　出　席：会場：15 名　オンライン８名
ファシリテーター：石井雅章氏　神田外語大学グローバル・リベラルアーツ学部　教授
プログラム・・会場３グループ、オンライン１グルーで話し合い
WS １：プラットフォームで目指すこと　　WS ２：自分で考えてみた具体的なアイデア
WS ３：自身が関われそうなこと、できそうなこと

Ws1 主な意見
・「見える化」活動している団体及び新しい（企業、若者）団体の紹介を入れたリストづくり。
・知恵と経験との関わりを誰に引き継ぐとして、環境をベースに社会・経済をつないでいくと若者などにつながり引き継がれていく。
・南拠点と北拠点を繋ぐ。
・拠点とは？について最初の視点に戻りつつ、自分たちの活動を繋ぎ、情報の共有を図る。他

石井氏より
・団体情報に既に入っている団体は、団体間の連携を創出する。
・団体に入っていない団体と繋ぐには：・応援型・受け皿型・しかけ型・応援型・出前型（キャラバン）等多様な方法がある。

WS2・.3 主な意見
・エコメッセちばを活用し、情報の収集と拡散。
・団体情報を得るために取材もある。
・環境への関心が弱い人などへのアプローチに音楽を活用してメッセージを発信、交流する。他

石井氏より
・企業などの情報収集は、企業に信頼されることが必要。
・横断的につなぐプロが必要
・部署や専門性を超えた連携が必要
・異分野・異業種連携の場としてのポテンシャルをもっていることも重要　他

次年度へ向けて（事務局より）
・2022 年度北拠点づくり会議は５回開催した結果、次年度は団体のリストを作り、活動を皆で検討し拠点実現へ向けて進む。

（文責：桑波田和子）

2023 年度

SDGs・ESD をひろげるための“ちば”拠点づくり事業

３年計画の最後の事業概要は次の通りです。是非多くの方のご参加・ご協力をお願いします。

【主旨】
「SDGｓ・ESD への取り組みを多様な主体と協働して、今後広げるために『県北』と『県南』、それらをつなぐ『コア』と合わせて３か所の“ちば”拠点（拠点は、SDGs・ESD プラットホーム機能も併せ持つ）を作る。

【拠点づくりの目的】
持続可能な地域づくりを目指すために、SDGs・ESD を理解し、関わり、ひろげることを通して、多様な人がつながる。人が集まる場所。そのことが、環境保全、環境学習等など持続可能な社会をつくる人が育つ。そのための拠点としての主な役割は、持続可能な人づくり。　　※県北地域：千葉市以北西部　県南地域：市原市以南　を想定

【具体的な活動】
１：ひろげる場づくり
〇千葉県北地区 SDGs・ESD 拠点づくりのための会議
・拠点づくり会議（千葉県コア拠点）：４回（第１回６月中旬　第２回９月中旬　第３回 12 月上旬　第４回２月下旬　を予定）
・SDGs・ESD 公開フォーラム開催：１回 2024 年３月上旬
・ちば南拠点・北拠点への支援会議（３回/年６月下旬、11 月下旬、３月中旬予定）

２：ひろげる人づくり
〇千葉県内で以下を開催
・SDGs ちばユース活動発表会：１回/年
・学校との連携事業
・ESD プログラム体験会:2 回/年
・ESD 地域リーダー研修会　:1 回/年
・ESD プログラムハンドブック作成

３：つながれ・ひろがれ
〇事業の広報
・公開フォーラム、ESD 体験プログラムなどの事業広報
・北拠点、南拠点、コア拠点情報配信（HP より）
・ニュースレター発行：４回/年

（文責：事業担当）

若者が主役の環境保全活動応援事業

2023 年２月に、千葉県事業 令和５年度「若者が主役の環境保全活動応援事業」 企画提案の募集があり、環境パートナーシップちばは、３月初旬に応募いたしました。

この事業の目的・概要は、以下のとおりです。

気候変動等の環境問題や SDGs への取組等、社会課題の解決に関心を持つ若者が増えていることを踏まえ、次代の環境保全活動をリードする若手人材の育成を図るため、①から③に掲げる内容に沿って、若者の創意工夫による環境保全活動の企画コンペを実施し、実際に活動する上での支 援を行っていくものです。

① 課題等の把握 環境保全活動に関し、地域の課題解決に取り組む企業や団体等から募集するなどして、若者と共に解決したい課題や、若者に求める事柄について把握します。

② 企画コンペの開催：主に 20 代までの若者が主体 の 団 体やグループを対象に、①で把握した「地域の課題又は事柄」や、「応募者自ら設定した課題」の解決等に向けた企画を募集し、コンペを行います。なお、優秀な企画に対し、実際に活動することを条件に、最大 50 万円の賞金を もって、活動資金の支援を行います。

③ 活動の把握が優秀なものとして賞金を交付した企画について、その後の活動状況を把握する必要があることから、定期的に状況把握を行い、活動報告会を開催します。

３月下旬には当会の企画提案が通り、千葉県と協議しながら事業を進めています。４月下旬には、課題の把握を目的に「若者が主役の環境保全活動応援団体」（千葉県内の環境保全団体や企業）に対して課題フォームへの回答をお願いしています。６月中旬にはその回答の一覧を公開して、若者から環境保全活動の企画コンペへの参加を募集します。

企画コンペは、10 月エコメッセちば会場にて同時開催となりますので、応援及びご注目をお願いいたします。

（文責：横山 清美）

「里山遊びの体験イベント in エコメッセちば」の開催

当会が「セブンイレブン基金助成」を受けて実施する「里山体験イベント」の紹介をいたします。

事業の趣旨

SDGｓ15 の陸の豊かさを守るためには、普段の生活の中で自然との関係をより意識することが持続の基盤となります。近年、子どもたちが自然に接し、体験する機会が少なくなっており、身近な自然を利用した里山遊びの文化もすたれてきています。

本活動は、昔誰もが親しんだ里山遊びを、都市部で多くの方々に体験してもらい、自然の恵みをより身近なものに感じる機会を提供しようとするものです。

里山遊びの課題

里山遊びをあまり行わなくなった原因は、もちろん身近な自然が少なくなったことです。

また、自然材料を直接使うため、「虫がわいたり、カビたり、変色する。」「制作段階や遊ぶ時に、ケガしやすく、ある程度の技術が必要。」など、現代の安全や衛生の概念に合わなく、扱いにくいことから、敬遠されがちになってきています。

事業内容

このため、本事業では３つの点に力を注いでいきます。

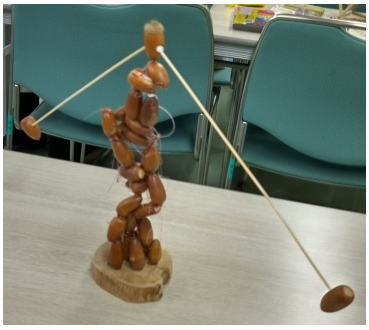
１つ目は、製品開発です。身近で多量にある自然の材料を使い、安全や衛生に配慮して、作る楽しみやそれを使った遊ぶ楽しみを味わえる魅力的な遊びになるよう、里山遊びに改良を加えていきます。

２つ目は広報で、28 回目を迎える「エコメッセ」に合わせ、直接子どもに働きかけるように、広報に努めます。

３ つ目は会場運営です。ヤジロベエや竹ぽっくりなど基本的な里山遊び 10 種を基本に、ゲーム的な要素を取り入れながら、その日集まったボランティアの指導で、幼児から小学生までの子どもたちが、安全に楽しく活動できるように工夫していきます。

今後の展開

本事業は、まだまだ開発の余地が多いものですが、10 月開催のエコメッセに向けて、学生ボランティア組織や里山関係団体等の協力を得ながら、事業の具体化を図っていきますので、ご支援よろしくお願いします。



（文責：横山 清美）

IVUSA の佐倉市活性化活動

IVUSA（NPO 法人国際ボランティア学生協会）は、今までは夏休みのナガエツルノゲイトウ除去活動が中心でしたが、もっと広く印旛沼の活動をしよう、ということで、このたび里山の保全活動にトライしました。

ただ、里山（保全活動）について白紙状態の学生さんが多いため、まずは佐倉市畔田の「（仮称）佐倉西部自然公園」で市民団体と佐倉市が協働で行っている里山整備に参加して、里山保全の技術的なことを教わりながら、活動体験を行いました。

２月 27・28 日にはリーダーたちを中心に練習会を行いました。練習会は、市民団体の方々の協力・指導の下で、極寒の中、焚火を囲みながらのテント野宿も経験することができました。星空がきれいだったことに感激しました。

本番は３月 26 日～28 日の３日間でした。初日は雨にたたられてしまいましたが、宿舎の草ぶえの丘でワークショップに切り替え、勉強会、ディベート大会などで参加者の交流を深めました。結果としては、この１日目の交流活動が２日目、３日目の現場活動にとても役に立ちました。

２日目、３日目は、いよいよ活動です。竹を伐採して散策路を作ったり、伐採した竹を活用して公園内を整備したり遊具を作る。完成した遊具で子供たちと一緒に遊ぶ、というとても魅力的な活動でした。

まるごといんばぬま、森のようちえん、佐倉里山支援 28、佐倉市の方などが手厚いサポートをしてくださったおかげで、里山は初体験の若者たちも立派に成果を上げることができました。

（文責：小倉 久子）

切った竹で、ブランコやジャングルジムをつくりました。子供たちがさっそく遊んでいます。

大和田機場 春の一般開放と印旛沼わいわいサロン

今年の春は全国的に桜の開花が非常に早く、毎年４月第１土曜日と決まっている水資源機構大和田排水機場の春の一般開放は、葉桜見物も覚悟していたのですが、関係者の必死の願いが叶って、開花から満開まで長持ちして、ほぼ満開の美しい桜を楽しむことができました。

機場では IVUSA もブース出展しました。活動紹介をしたり、生きたカミツキガメやナガエツルノゲイトウを展示し、お花見の来場者が興味深くポスターを見たり説明を聞いてくれました。

午後は説明ホールを使わせていただいて、環パ主催の印旛沼わいわいサロンです。

まず初めに、水資源機構の小栗所長が「水資源機構の仕事、特に印旛沼について」のお話をしてくださいました。

日本の高度経済成長期の水需要を支えるために、ダムや水路を作ってきたこと、千葉県でも、利根川の水を房総半島の南まで運ぶなど、千葉県内の８割の水を供給していること、大雨の時には洪水にならないように機場で排水することなどが話されました。

次に、参加者に、「印旛沼のここがおススメ」「印旛沼でこんなことがしたい」というのを考えてもらい、印旛沼流域の地図に貼り付けてもらいました。

参加者からは、・ビューポイントはいろいろある。／・人はもともと水辺が好きなのだと思う。もっと水辺をアピールしよう。／・観光は自慢の連鎖。もっともっと印旛沼を自慢しよう。／・北沼で釣りをして、魚を食べる。／・水があるって、すごくだいじだと思う。／・コウノトリって見たことがない。印旛沼で増やしたいな。／など、など、たくさんのすてきな意見が出されました。こんなことが実現したらいいですね。

桜にも、お天気にも恵まれ、とても良い一日でした。　（文責：小倉 久子）

エコメッセ２０２３in ちば 開催案内

エコメッセちば実行委員会

「持続可能な社会の実現」を目指し「つながれひろがれ　エコメッセ」をもとに、「身近な暮らしからもう一歩！」をテーマにして、市民団体、企業、大学、行政など社会の様々な主体が参加・出展し、環境について子どもから大人まで楽しく学べる環境活動見本市「エコメッセ２０２３in ちば」を開催します。

今年度は、SDGs の５つのＰの中で Peace を取り上げ、誰でもが身近な暮らしを今のステージよりもう一歩進め、自分ごととして行動することを呼びかけます。市民団体、企業、大学、行政等による様々な活動や製品・技術の紹介、商品の販売、子どもを対象とした参加体験型ワークショップの実施を予定しています。

市民団体等の紹介やエコメッセへの来場や出展を促すため、ホームページ・ＳＮＳ・新聞・ラジオ等のメディアを使った広報やチラシやポスターの制作・配布、他の環境イベントへの出展等により、多くの方にエコメッセを周知するとともに、広く出展者を募集し、イベント当日の出展者と来場者および出展者間等との交流（情報交換）をはかります。

今年度の開催形態としては、団体紹介動画をホームページ上で公開するオンライン出展と幕張メッセ国際会議場を会場とする会場出展の２つの形態で参加可能です。オンライン開催は 2023 年 10 月 14 日（土）10：00 から 2024 年第 29 回開催前日までエコメッセちばホームページ内で団体紹介動画を公開させていただきます。また、会場開催は 2023 年 10 月 15 日（日）10：00～16：00 に幕張メッセ国際会議場を会場として出展団体の活動紹介ブースを出展していただきます。

会場出展は１区画（2m×2m）単位で 100 区画（80 団体程度）を募集し、出展料は以下のようになっています。

企業・行政−１区画 20,000 円（消費税込み）
市民団体・大学−１区画 8,000 円（消費税込み）
高校・学生団体−１区画は無料　２区画目から１区画 8,000 円

会場出展については、区画が埋まり次第出展募集を終了します。

オンライン出展は出展団体数に上限は設けず、下記の出展料で出展団体の募集を行っています。

企業、行政　10,000 円/３分（消費税込み）
　＊３分追加ごとに 10,000 円加算
市民団体、大学　4,000 円/３分（消費税込み）
　＊３分追加ごとに 4,000 円加算
高校・大学生団体は無料
　＊３分追加ごとに 4,000 円加算

いずれの参加形態についても、エコメッセちばの HP の出展要領のページからリンクしている申し込みフォームからお申し込みください。下記の重要日程をご確認いただき、多くの団体にご参加いただければ幸いです。

重要日程
（４月 13 日）第１回実行委員会総会開催
「エコメッセ 2023in ちば」出展募集案内開始
（７月 21 日）会場出展募集締め切り
（８月 21 日）オンライン出展募集締め切り
（９月 13 日）第２回実行委員会開催
出展者説明会及び交流会開催
「エコメッセ 2023in ちば」開催案内開始

（10 月 14 日）
「エコメッセ 2023in ちば」開催（オンライン）
（10 月 15 日）
「エコメッセ 2023in ちば」開催（会場）

この QR コード（エコメッセちばの HP）からお申し込みください

県内の環境保全活動人（団体）紹介　―　67　―
おききしました！　この人・この団体

非営利型一般社団法人 銀座環境会議

代表理事　平野 将人

非営利型一般社団法人銀座環境会議は、カンボジアやラオスでの農村開発などに携わり、2018年 に帰国した代表理事の平野を中心に 2019年 11 月に設立されました。事務所は常磐線北松戸駅前で、主な活動エリアは松戸市や柏市といったいわゆる東葛地域です。「なぜ銀座 ?」とよく聞かれるのですが、特定の河川や里山の保全などではなく、“都市生活者のライフスタイルを変革する” という設立の主旨から、松戸駅前や柏駅前をはじめ、全国に多数ある「銀座」にしました。

主な活動は、「松戸そらぴかプロジェクト」で、これまで松戸市の教会と柏市の障がい者施設の屋根に太陽光による市民発電所「そらぴか発電所」を設置しています。松戸市や柏市といった都市部で再生可能エネルギーを普及させるにあたっては、やはり建物の屋根に置くタイプの太陽光発電が最も地域の実情に即していると言えます。銀座環境会議では、１）資金調達に市民が関わる、２）屋根の形状上可能であれば設置作業に市民が関わる、３）停電の時はスマホなどの充電ステーションとして地域に開く、といった要件をもって「市民発電所」としています。2 つの発電所ともに銀座環境会議が初期費用を調達して所有者となる第３者オンサイト PPA の形態をとりました。発電した電気はまず教会/施設が自家消費し、余剰を電力会社に FIT 価格で売電しています。自家消費分の電気代は、相対取引で銀座環境会議に支払ってもらい、初期投資費用を回収する仕組みです。回収後は教会には電気代大幅減額、施設には設備譲渡の予定です。

現在それぞれ第２号を計画中で、柏の第２号は「自立援助ホーム」という、様々な事情で親元を離れて自立を目指す子どもや若者の施設に設置予定です。この活動は、4 月からマルイのクレジットカード、「みんな電力 EPOS カード」の “エール応援金” の応援先となっており、カード入会 1 件につき 1,000 円が入会者の負担なく寄付されます（ 詳しくは下記 URL をご覧ください ）。設置の暁には、節約される電気代や売電収入をホームの子どもたちの医療費等に充てます。背景には、公的な補助金が太陽光パネル設置や電気自動車購入など余裕のある人に向けたものばかり、という問題意識があります。

その他には、「2030SDGs ゲーム」というカードゲームを使った SDGs セミナーも、役所、教育機関、企業、個人を対象に 40 回開催しています。また、最新の活動として、高校生に環境教育をしたのち、彼ら彼女らが希望する食と環境に関するプロジェクトを実現する「高校生がつくるミライノ食卓」を開始しました。銀座環境会議、まつど NPO 協議会、高校教師の大人チーム、また千葉大と麗澤大の学生がメンターとなり、高校生に伴走します。環境に配慮した食品をつくるのか、食生活を見直すキャンペーンを行うのか、高校生次第なのでまだわかりませんが、いずれにしてもその想いを社会に発信することを特に大切したいと考えています。その他、今年度実施予定の松戸市の脱炭素市民会議の運営への参画や、資源エネ庁補助事業の省エネお助け隊事務局など、今年度は活動の幅を広げる予定ですが、小さい団体だからこそ、今後もメッセージ性のある活動を展開したいと考えています。

また、地域 ESD 活動推進拠点、県のちば環境学習応援団にも登録しておりますので、様々な場面で多くの皆さんとご一緒できることを期待しています。

https://www.eposcard.co.jp/collabo/minden/index.html

運営会議報告

４月度運営会議

４月 13 日（木）20:00～22:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 「学生フォーラム in ちば」開催　3/12
- 地球環境基金事業（2022 年度事業）企画運営会議　3/22　ニュースレター発行
- だより 150 号発送
- 印旛沼わいわいサロン開催　4/1
- いちはら環境フェスタ出展申し込み 6/10
- エコメッセちば実行委員会総会　4/13
- 若者が主役の環境保全活動応援事業　受託
- セブンイレブン助成金確定

【協議】
- だより 151 号
- 若者が主役の環境活動応援事業担当者会議担当者会議　4/18
- 地球環境基金事業（2023 年度事業）内定
- 印旛沼環境基金応募　・理事会開催 4/25
- 環境パートナーシップちば総会準備

５月度運営会議

５月 10 日（水）20:00～23:00
会場：オンライン（Zoom）

【報告】
- 若者が主役の環境活動応援事業担当者会議　4/18　広報開始
- 地球環境基金事業（2022 年度事業）支払い
- 理事会開催　4/25
- 総会案内(メール配信)
- 幕張公民館講座　7/25

【協議】
- だより 151 号　進捗
- 第２回理事会開催　5/21 総会終了後
- いちはら環境フェスタ　6/10
- 印旛沼環境基金応募
- 地球環境基金事業（2023 年度事業）申請
- 若者が主役の環境活動応援事業
- 会計運営について後日勉強会を開催

お知らせ

【まるごみ印旛沼 2023】

印旛沼は美しく価値の高い場所です。
皆で楽しくきれいにして、地域の自慢にしましょう。
開催日：令和5年6月10日（土）　午前9時～
参加方法：
①現地参加：高崎川南公園（佐倉市表町２丁目）に集合。小出農園までの高崎川沿岸をまるごとメンバーとごみ拾い。
印旛沼探検隊 E ボートによる水面ごみ拾いも。
ゴミを拾ったあとは、お昼に沼の恵みをいただきながら交流（交流会参加費 500 円）
②印旛沼周辺のお気に入りの場所や活動場所などを、各々でごみ拾い。その写真を、自信の SNS で「＃まるごみ印旛沼」をつけ投稿するか、事務局に送付。
申込みはコチラ（6月5日（月）まで）
https://forms.gle/1LdudaVXYF9YKZHL8

【国立環境研究所公開シンポジウム 2023】

「モニタリングから読みとく環境
～次世代につなげるために～」

開催日：2023年6月23日（木）　13:00～16:00
（オンライン開催）
配信方法：
講演会：Zoom ウェビナー
ポスター発表：Zoom ミーティング（ブレイクアウトルーム）
視聴：
無料（事前に参加登録が必要）
申込み：
https://www.nies.go.jp/event/sympo/2023/index.html
問合せ先：
国立研究開発法人国立環境研究所　公開シンポジウム 2023　事務局
E-mail：koukai2023_jimu@nies.go.jp

「特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば」

環境活動の推進と充実を図るため、市民・団体・企業・行政・学校とのパートナーシップのもと、「持続可能な開発に向けた目標(SDGs)」や「持続可能な開発のための教育(ESD)」の視点を意識して、さらなる持続可能な社会の実現をめざすことを目的とする。

お問い合わせ
事務局：〒262-0006　千葉市花見川区横戸台 21-13　特定非営利活動法人 環境パートナーシップちば
Tel　：　090-8116-4633　　E-mail：info@kanpachiba.com
ホームページ：https://kanpachiba.com/
※会費や会員申し込みなどの情報は上記 ＨＰでご確認ください。